

## 令和5年度第1回堺市北区政策会議 会議録

日 時：令和5年7月24日（月）10時から11時45分まで

場 所：堺市北区役所3階302会議室

出席者：【構 成 員】（敬称略）天野隆次、魚谷守信、加我宏之、金戸郁子、清水苗穂子、竹内裕賀、長尾永子、羽根恵子、坊農豊彦、八木則之、吉村登志子  
（以上11名出席）

【特別構成員】（敬称略）光武早弥香（以上1名出席）

【事 務 局】鈴木敏文（区長）、松尾恵子（副区長）、金本龍二（北保健福祉総合センター所長）、出野俊之（自治推進課長）、宮田大志（学校連携支援担当課長）、村田博史（子育て支援課長）、山本美佐子（北保健センター所長）、羽野敏博（地域福祉課長）、樋口年秋（堺市社会福祉協議会北区事務所長）、林大輔（企画総務課長）、至田義朋（企画総務課課長補佐）、増川哲（企画総務課企画係長）、佐藤裕子（企画総務課）

会 議：公開会議

傍 聴：傍聴者数2人

### 1 開会

### 2 区長あいさつ

○鈴木区長 皆さんおはようございます。ただいまご紹介に与かりました北区長の鈴木でございます。構成員の皆様におかれましては、お忙しい中、お暑い中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。この4月から区長に就任しており、本来であれば構成員さん一人ひとりに先にご挨拶すべきところでございますが、今日になってしまった構成員の皆様におかれましては、誠に申し訳ございませんでした。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

この北区政策会議ですが、北区の実情及び特性に応じた政策形成を進め、特色ある区行政を実現するため、この2年間、北区みんなのまちビジョンの3つの基本方針である、「魅力発掘、発信、創出」、そして「子育て」、今回のテーマになっています「防災」、この三つをテーマとして、様々な視点で構成員の皆様から大変有意義なご意見をいただいたと前職の垂井区長からも聞いております。また皆様のご意見を賜り、様々な取組に反映しているところ です。

そして本日は第1期の最後の会議を締めくくるものとなっております。前回から、現役世代の防災意識を高める啓発に関していただきました皆様の意見を踏まえまして、事務局のほうで検討しました啓発内容、啓発手法をお示しさせていただきます。1人でも多くの方々に

広く啓発できますよう、皆様の忌憚のないご意見を賜りますようよろしく願いいたします。

簡単でございますが、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

### 3 会議報告

《事務局から配布資料の確認、会議の公開についての説明、傍聴人数の報告》

### 4 議事

○加我座長 大阪公立大学の加我です。前回から現役世代の防災意識を高める啓発ということで、皆さんからご意見をいただいています。6月から7月の梅雨の時期に、堺の近辺では見られませんでした。大雨によって全国的に被害を受けられたところも多数あります。堺市北区でも、いつ、何どき、どのようなことが起こるかというようなことが分からない状況であり、改めて防災意識を高め、さらには若年層の方々にということについてご意見をいただきたいと思っています。

それでは、令和5年度第1回目の北区政策会議を進めます。まず、本日の本題に入る前に、案件1、前回の会議で構成員の皆さんからいただいた、現役世代の防災意識を高める啓発についての意見をまとめ、それに対する区の考え方と、今後の取組を実施する際の方針について、事務局で検討した内容の報告があります。それでは事務局から説明をお願いします。

○事務局（増川企画係長） それでは、3月10日に開催した会議で、構成員の皆様からいただいたご意見を受け、事務局として啓発の方向性を検討いたしましたので、ご報告させていただきます。

資料1、前回会議での主なご意見をご参照ください。現役世代の防災意識を高める啓発が必要な背景や現状の課題について、事務局よりご説明させていただき、啓発施策を検討するに当たっての必要なポイントにつきまして、構成員委員の皆様より有益なご意見をいただきました。

主なご意見を抜粋、内容を大別し、啓発を進めるに当たり考慮すべき取組方針を導きました。

まず主な意見1としまして、「一般的な防災知識に加え、北区の特性に合わせた啓発やPRが必要」「自助について具体的に何からすればいいのか分かるように、自分でこれだけは準備してほしいこと、最低限お願いしたいことを北区として伝える必要がある」といった、北区の特性を捉えた、北区民に向けた啓発が必要であることに関してのご意見をいただきました。これらのご意見から、北区ホームページ内に防災特設サイトを開設したいと考えております。

次に、主な意見2としまして、「被災時の集合場所などをあらかじめ家庭で話し合っておくことが必要」「非常食の味や作り方、防災靴の使い方やどの程度役に立つかなどを事前に知っておくことが大切」といった、家庭での備えが大切であることに関してのご意見をいた

いただきました。これらのご意見から、各家庭が暮らしの中で、日頃から備えられるような情報を提供してまいりたいと考えております。

続きまして、主な意見3です。「一番に考えないといけないのは、組織に属していない子育て中の主婦層や未就学児」「学校の防災教育により子どもは身近に感じるし、友達や親、家族とも話せる」「子ども向けに分かりやすく具体的に書かれている子育てファミリーのための防災ブックを活用するとよい」など、子どもや子育て世帯への啓発が大切であることについてご意見をいただきました。これらのご意見から、学校との連携、子育てファミリーのための防災ブックのフル活用を行ってまいりたいと考えています。

続きまして、主な意見4です。「大震災から時間が経過し、大震災を知らない世代が増える中、震災を風化させない啓発が大切」「危機感があれば、時間がなくても防災について考える。いつかは災害が起こるという啓発が必要」など、震災を風化させないこと、危機感を持たせることが大切であるといったご意見をいただきました。これらのご意見から、ホームページやSNS、口コミで災害を自分ごとに感じてもらう発信を行ってまいりたいと考えています。

続きまして、主な意見5です。「ご近所や友達とのつながりで、話題になると身近なものになる。身近になればさらに共有の機会が増える」「防災への関心は家族から始めて、ほかの世帯へと広げていけたらよい」「子育て世帯が集まる場に出向いたり、小学生の夏休みの自由研究で発表してもらったり、SNSでインフルエンサーに拡散してもらったりと、多くの人の目に触れることが大切」といった、SNS口コミによる拡散が効果的であることに関してのご意見をいただきました。これらのご意見から、SNSの活用、人に話したくなる面白い取組の紹介を行ってまいりたいと考えています。

続きまして、主な意見6です。「支援に回れる現役世代が支援の必要な方をどう助けるか考えることが必要」「中学生や高校生や大学生には、災害時活躍できる知識やノウハウを身につけませんかというPRが大切」といった、支援者の養成が重要であることについてのご意見をいただきました。これらのご意見から、同年代の共感を呼べるよう若年層で防災に取り組む方の思いを取材し、発信してまいりたいと考えております。

最後に、主な意見7です。「継続的な刷り込みが大切」「防災に関心を持ちにくい方々に向けた啓発があればよい」「忙しい方でも生活の中で意識できるように、あの手この手で露出を高めることが大事」といった、暮らしの中で防災を意識する機会が大切であることに関してご意見をいただきました。これらのご意見から、日常生活でのあらゆる場面を捉えた啓発をしてまいりたいと考えております。

以上、前回会議の主なご意見についての説明となります。

○加我座長 ありがとうございます。事務局のほうでまとめていただいたということになりますが、何か漏れ等また気づいた点等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それで

は、本日の案件の方に進んでいきたいと思えます。まず一つめは、今後の取組の案件2のほうに進みます。本日はそれらをブラッシュアップさせるために、自由にご意見をいただきたいと思っています。それでは、今後の取組案の一つめ、暮らしの中で防災を意識する機会の創出について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（増川企画係長） それでは資料2をご覧ください。

無関心層への防災の啓発に決定的なものではなく、あらゆるシーンで露出を高め、意識してもらい機会をつくるのが求められます。また、これをきっかけとして、防災情報により触れてもらえるようQRコードの掲載などにより、ホームページや防災ブックへ誘導し、最終的には防災の備えについて行動してもらえるように促します。

それでは、暮らしの中で意識をしてもらえる場面をできるだけつくれるようにと検討しました、啓発手法を資料に沿ってご説明いたします。

まずシーン1、ご家庭です。我が家の防災アイデア、非常食レシピなど、各家庭での取組について、SNSなどで募集しその中からおすすめのものを各種媒体で紹介し拡散したいと考えています。家族で防災について話し合うきっかけをつくり、優れた取組の共有により、災害への備えの行動が広がることを期待しています。

次にシーン2、お買物です。一つめとして、食料品や防災グッズを扱う店舗などに、災害への備え啓発ポップを掲示し、防災物品を目の前に、防災について意識してもらうとともに、啓発ポップに掲載するQRコードにより、さらに防災情報に触れてもらえるよう誘導します。二つめに、暮らしの備え、いつものもしもを掲げる無印良品さんとの連携です。先ほどご説明しました啓発ポップ掲示に加え、防災キャンペーン時を捉えた差別化防災マップ、子育てファミリーのための防災ブックの店舗内配架や、店舗内スペースでの「おやこtoぼうさい」講座の開催。無印良品が発信する災害時に役立つ防災の技や知識をまとめたイラストなどの北区ホームページでの紹介など、連携取組について現在先方と調整中でございます。

続きましてシーン3、街なかです。大阪メトロの地下通路、北区役所や商業施設にあるデジタルサイネージ、北区役所エントランスホールなど、Web上だけではないリアルの場を発信の場として活用していきたいと考えています。

続きましてシーン4、SNSです。現在1,800弱フォロワーのいる北区役所の公式インスタグラムで、防災ウィークを設けまして、防災のお役立ち情報を写真や動画で楽しく発信してまいりたいと考えています。また、この北区役所インスタグラムは北区の魅力を発信しており、「おやこtoぼうさい」講座の活動を地域の魅力としてご紹介していきたいと考えています。

続きましてシーン5、学校です。小中学生の防災意識を高めて、未来の防災リーダーを育てるジュニア防災リーダー事業を引き続き推進するとともに、活用できそうな防災コンテンツを学校に提案していきたいと考えています。

最後にシーン6、図書館です。毎月テーマを決めて、本や資料を展示するブックフェアでは、来年3月に防災をテーマに実施の予定です。また、ボランティアによるお話会や、おすすめ絵本リーフレットへの防災関連本を採用、書棚の各コーナーには、防災関連本の見出しを設置するとともに、子育てファミリーのための防災ブックを配架。図書館内だけでなく、ホームページなどでも図書館で貸出しする防災おすすめ本の紹介をしていきたいと考えております。

以上、防災を意識する機会として事務局が考えました各シーンになります。暮らしの中で防災を意識する機会の創出につきまして、構成員の皆様のお立場やご経験から忌憚のないご意見をいただきたく存じますので、よろしく申し上げます。

○加我座長 ありがとうございます。では、事務局よりご説明いただきました点について、忌憚のないということですので、少し時間をいただきまして意見交換をしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○魚谷構成員 機会の創出に関しては、このままコロナが推移すれば、各校区や地域活動団体が行うイベントの中で、防災に関するコーナーなどを可能な限り設けて、そこで発信をするということも大事ではないかと思っています。

私は北区のボランティア連絡会の会員をしているのですが、先月の29日にあった「気づきのボランティア講座」で、私がこの会議に参画している関係もあり、初めて防災の講座をやろうという話になりました。そこで自治推進課の皆さんの協力を得まして、役に立つようなアイテム、グッズ、非常食はどんな味かなど、また防災倉庫には何が入っているか、というようなことを約30名の皆さんに勉強していただきました。

中には初めて知ったという方もおられました。特に防災倉庫に関して、私も堺に来て20年近くになりますが、初めて見学させていただきました。災害時でも水道管が断水していなければ水の出る「すいちゃんのビックリじゃぐち」という非常にいい装置も見ていただいたのですが、校区や自治会、小学校に関係のない方はやはり知らない方が多いのではないかと思います。

これから各地域、校区でイベントがどんどん行われます。我々もボランティア連絡会としまして、この11月の末にボランティアフェスティバルを行います。これはコロナ禍でしばらく停滞しておりましたが、昨年再開して今年はコロナの状況がよくなれば、従来の規模あるいはそれ以上で開催したいと思っています。その中で、今回の会議をきっかけに勉強させていただいたことを踏まえて、防災の関係の講座をぜひ設けさせていただき、会の皆さんと内容を相談しながら、行政の皆さんのお知恵も借りながら運営していければと思っています。

また、毎年11月の初めに開かれる区民まつりも非常にいい機会ですよね。皆さんが興味のある催し物に集まって、そのついでに防災の関係のコーナーに立ち寄っていただく。

立ち寄っていただくためには、何らかのアイデアが必要ですが、そういったことも考えていただければと思います。SNS上だけでは関心がなければ皆さん見ませんね。例えば地下道などにあるデジタルサイネージでも、関心がなければずっと素通りしてしまいます。その関心呼び起こすためには、実際に皆さんが集まる場で、発信していく必要があるのではないかと思います。

○加我座長 ありがとうございます。コロナ禍で3年間ぐらいいろんな行事が、できなくなりました。11月の北区の区民まつりはできたのでしょうか。

○天野構成員 開催しました。

○加我座長 地域行事がどんどん3年前の状況になってこようかと思うので、それをうまく活用してということも非常に大事なことだと思います。

これは決してSNSだけではなくて、お買物、街中、学校だったりだとか、それから既存の校区地域行事、それぞれ、今までにも本当に防災関連のことを取り組んでいただいているかと思っています。さらに拡充をしていってということだと思います。

少し事務局のほうで何かご意見等ございますか。

○事務局（林企画総務課長） 企画総務課の林です。ご意見どうもありがとうございます。こちらは、暮らしの中で防災を意識する機会の創出ということで、普段はSNSにあんまり触れておられない方ということも当然おられると思いますので、SNS以外も色々な場面を捉えて、啓発を広くやっていきたいというのが趣旨でございます。今言っていたような地域での活動なども含めまして、幅広く色々な機会を捉えて、周知をさせていただけたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○加我座長 ありがとうございます。

○吉村構成員 前回の会議でのご意見やそれぞれの意見で、子どもや親子での学びが重要、ということが非常に出ています。昨年北区子育てフェスタでは、そういうコーナーが事業の内容としてあり、ぜひ引き続きという意見が今年の子育てフェスタの実行委員会の中でもありましたので、今のお話をお聞きして改めてイベントの中での啓発が必要と思いました。防災というのは、特別なものではなく、毎日の安全安心な暮らしの取組が、災害に強いまちをつくっていくんだというイメージで、日頃からそんな取組ができたらいいなと思っています。

防災意識の機会の創出の中で、お買物のところでありましたローリングストックという言葉ですが、随分定着したようなキーワードかなと思うのですが、いろんなシーンでキーワード的に出てくると、「これなんだ、これなんだ」というように具体的に確認ができて、実際に自分の家で「賞味期限が少し近づいてるところをどう工夫してやっていくか」という、日頃の行動につながっていくのかなと感じています。北区の防災力を上げるためにみんなで一緒になって取り組めるキーワードやキャッチフレーズがあったらいいなと感じました。

○加我座長 ありがとうございます。続いてございますでしょうか。

○八木構成員 前回の意見であった、我が家の防災計画を発信していくということでは、非常にいいことだと思います。それに対して専門家の人たちなどのコメントみたいなものが付け加えられたら、もっといいと思いました。自分では、防災について思い違いや勘違いしている場合もあります。大学などで防災の講座をする方、専門的に研究された方、NPOなどで活動されている方などからコメントをもらうことは非常にすばらしいことだと思います。

これは啓発全てに言えることで、色々な機会で専門家の方の意見、例えば建築の専門家から耐震に関するコメントなどが欲しいです。

また、災害となると、どうしても風評被害など人権侵害につながるような場合もあります。皆様の啓発のスキルを上げていくため、正しい知識を身につけるために、そういった風評被害を防ぐような専門的な方のご意見もあればいいなと考えております。

○加我座長 ありがとうございます。

○天野構成員 基本的に事務局の提案に了解をしています。皆さんの参考になったらということで私のほうで今現在やっていることを2、3ご紹介申し上げたいと思います。

私どもの金岡南校区は3年前から防災フェアを毎年1回2月に開催しております。3年前ですとコロナにちょうど直面をしました。コロナのために延期せざるを得ないような状況になりました。実際に2月の予定が、3月のぎりぎりになってやっとできました。

これも通天閣の灯が赤になると駄目だとか、いわゆる大阪モデルですね。昨年やはりコロナの時代でして、難しかったんです。昨年の北区の交流まつりは、当初計画したときは黄色で、開催がどうかということスタートしたんですけど、たまたま運がよかったのか、開催日の1週間前になって青になりました。非常によかったなと思っています。

こんなコロナのときだからお客さんが来ないのではないかという気がしていたのですが、実際には3万5,000人という従来と全く変わらないたくさんの方に来ていただきました。大盛況でした。

先ほどこの北区のまつりの中にこの防災の問題を入れたらどうかとお話がありました。確かにそうだと思います。今年はちょっと時間的な問題があるのでどうか分かりませんが、事務局と相談をして、何とかしていきたいなと思っています。これが1点め。

それからもう一つ、先ほど防災フェアを3年間やってきましたというお話も申し上げました。お客さんを動員するのにどうしたらいいのか。これが一番頭の痛いところです。なかなか普通は来てくれません。頭からそんな面白くないなということで見に来ない人がたくさんいらっしゃる。そこで考えたのは、今ロケットなどの宇宙開発で非常に注目されているJAXAと提携をしまして、ここの先生とネットでつなげ、皆さんにいろんなことを教えていただきました。子どもがたくさん来ました。喜んでくれました。

やはり子どもを呼ぶための一つの手段としては、そういう興味を引くものが一つ要るのではないかということで、2年連続でやりました。昨年開催した北八下校区でもたくさんの方

に来ていただき、本当に大成功だったと思っています。こういうのが今までの実績でございます。

もう一つ、個人的な話なんですけども、今現在、フェイスブックを使っています。私も全く最初分かりませんでした。区役所で音頭を取ってもらって集まり、そこでいろいろ教えていただき、加入させてもらいました。自分の情報が全世界に流れるので、どこまで情報を流したらいいのか非常に難しい。結局オブラートに包んだ情報しか言えなくなってしまうのかなという気がします。

それからもう1点、LINEでございます。大半の方がされてるのではないかなと思うんですけども、使い方によっては難しい。怖い。私の体験ですけども、何も購入してない物が購入されたようになっていて請求が来ました。たまたま金額が少なかったんで、そのままにしていたんですけども、次から次へといろんなLINEが入ってきました。なぜお金を払わない、なぜこれを購入したのに拒否をするんだと、いろんなことを言われ大変でした。

しかし困ったときにLINEの会社に連絡をしようと思っても、一切できません。問い合わせの電話番号も住所も何も表示してません。全ては、LINE上でのやり取りということなんですけども、なかなかちががきません。

そんなことがございますので、SNSも、やり方によっては一歩間違えるとそういう問題が起きるといふこと。皆さんも十分ご承知いただいて、間違いのないようにやっていただきたいと思ひます。

○加我座長 貴重な体験談をいただきまして、ありがとうございます。サイバー上というか、デジタル上の新たな災害というやうなことが発生しているかと思ひますので、十分に気をつけていただければと思ひます。次にいかがでしょうか。

○清水構成員 無関心層への防災啓発ということ、本当にこれが一番難しいと思ひます。いただいた資料で思つた感想をちょっと順番にお話したいと思ひます。

一つ目、お買物のところで無印との連携について、非常にいいと思ひます。もちろん無印さんはビジネスの販売につながると思ひますし、特にやったらいいなと思ひるのは、よく包丁などを売るときなどの実演販売です。「何を買ったらいいのか、何を準備したらいいのか、使い方や保管方法とかわからない」と思ひるので、無印さんで販売されている防災グッズとかがあれば、使い方も含めて紹介してもらひ。

そういうところでは、双方のコミュニケーションが生まれるので、さっきLINEで一方向的につながらないとおっしゃっていましたが、対面ですぐに聞けるということもありますので、いいのかなと思ひました。

それから、ホームページを立ち上げられるということについてです。北区に子どもたちなどの劇団、芸人さんの卵さんなどがいらっしやれば、少し支援はいると思ひますが防災に関するショートムービーなど手作りでコンテンツをつくってもらひ、ホームページに上げる



というのはどうかなと思いました。

また、集中して発信することが必要だと思います。防災月間がいいのか、防災週間がいいのか分かりませんが、例えば、ホームページのトップページ、SNS、デジタルサイネージを含め、いろんなものを一斉に防災一色にしてしまうというようなイベント的なものも、目につくのではないかと感じました。

それから、学校のところでリーダーの育成というのがあります。ボーイスカウトやガールスカウトなどの子どもたちのリーダーや部活のキャプテンを集めて、防災的なことをリーダーシップを取ってもらってやれると、それぞれどういう活動をしてるのかも含め、何かあったときの横のつながりもでき、コミュニケーションが生まれるので、良いかなと思いました。

○加我座長 ありがとうございます。ほかにアイデア等、ございますでしょうか。よろしくお願ひします。いかがでしょうか。

○羽根構成員 出していただいた案ではお買物や街中など無意識に目に入ってくる場面を取り入れてくださったので、非常によいと思います。私たちのマンションでは、今度8月6日の夏休みに設備見学ツアーというのを企画しまして、自分たちのマンションがどうなっているのか、災害時にどうなるのかというのを説明しながら、各所防災倉庫も含めて見学しようというものです。そこにできたら小学生高学年、中学生、高校生、大学生とかが、来てもらえたらと思うんですけども、部活や塾で忙しかったり、なかなか集まらない。たまたま学校の先生がいらしたときに、最近入試や就活に「ボランティア活動証明書」というものが必要な場合もあるので、発行できるといいかもとお聞きしました。動機は不純なんですけどそれで募集しましたら、5名の子どもさんの参加希望者の中に証明書が欲しいという子が1人いました。

引き込むためにあらゆる手を使って、お互いウィン・ウィンになることを企画しています。

○加我座長 ありがとうございます。竹内さんいかがですか。

○竹内構成員 公立大のボランティアセンターに来ている人は、ボランティアにもともと興味がある人が多いと思いますが、そういう情報をいただければ、2、3年生とか就活の大学生にも関心を持ってもらえるものになるのではないかと思います。

防災を意識する機会の創出の中で感じたことは、街中のメトロの地下通路やデジタルサイネージとか、そういうリアルの場で発信できるというのは、いいなと思うんですけど、立ち止まって見るということは、ほとんどの人はしないと思うので、流し見でも興味を引かれるような工夫をしっかりと、折角やったのにあんまり見られないということにならないようにしてほしいなと思います。

また、インスタ上でも、防災ウィークを月1ぐらいで1週間を設けたら頻度的にもいいのかなと思いました。

また、学校でのジュニア防災リーダー育成は、参加者や目標数がどれくらいなのか気にな

りました。

○加我座長 ありがとうございます。次にいかがでしょうか。

○坊農構成員 皆さんどんなアイデアがあるかなと、いろいろ聞かせていただきまして大変参考になりました。

まずご家庭シーンですが、以前見せていただいたイラスト入りで小さなお子さんもお母さんも見やすい「子育てファミリーのための防災ブック」という冊子と同じように「家庭で備えておかなければならない物は何か」みたいに、台所にポンと置いといて手軽に手に取れるような、そんなガイドや冊子みたいなものがあつたらいいのかなと思いました。

次は、お買物に関しまして、近くのホームセンターに行くと、防災コーナーみたいなものがありまして、突っかえ棒や非常食などいろいろありましたので、こういうコーナーを利用したり、スーパーなどでも防災食コーナーみたいに、いろいろとおいしそうなものを並べていたら、自然と目に入るんじゃないかなと思ってます。あとは街中シーンですけど、今竹内さんのお話のようにサイネージってなかなか歩いていたら、立ち止まって見るというのがなかなか難しいので、少し古いですがチラシとか、例えば子どもを対象にした防災ポスターコンクールみたいな企画をして、それをバスや電車など乗り物の中に掲示していたら、目に留まるのではないかと思います。

SNSに関しては、コロナ禍では、こういうのを利活用して何とかコロナを乗り切ろうというような話になってましたが、魚谷さんのお話など聞きましたらやっぱり顔と顔を合わせるのも非常に大切なので、リアルで何か面白い企画をして、SNSやイベントなどで使ったらいいんじゃないかなと思いました。

○加我座長 ありがとうございます。長尾さん、お願いいたします。

○長尾構成員 私は子ども食堂を中百舌鳥のほうで運営しているのですが、資料3にある体験型防災学習施設の件ですが、この夏休みに3回、わくわく教室という企画をこの会議の提案事業としてさせていただきまして、8月9日に3か所の子ども食堂に参加した小学1年生5名ずつ、スタッフ合わせて20名ほどで、この防災センターに行かせてもらいます。正直私もあんまり興味はなかったのですが、こういう機会があつて子どもが行つたことで、「お母さんあれ面白かったよ」とかいう話から、「じゃあ家族でもう一回行ってみようか」というような流れを作つて、きっかけは不純でも、少しでもいろんな人に広がっていったらいいなと思っています。

私も実際参加させていただくので、そのときの様子など、子どもさんたちが問題なければ動画とか撮らせてもらつてSNSでどんどん発信していきたいと思っています。

○加我座長 ありがとうございます。

○光武特別構成員 「動機は不純」に関連した話をさせていただきます。先日、7月22日の夏休み最初の土曜日に、小学生向けの防災講座を金岡公園にて開催させていただきました。

内容は親子防災で、パッククッキングというポリ袋で防災食を作り食べる体験が夏休みの自由課題などのきっかけになるようにということで開催させていただきました。募集方法としては広報に記載させていただいて、かなり小さな欄だったんですけども、開示してからその日中に定員10組埋まりまして、予約率は100%で、出席率は90%でした。

実際両親ともにとか、お子さん兄弟連れでとか、たくさんの方に来ていただきました。お父さん、お母さん、お家の方からすると「食べれるから行こうや」という不純なきっかけと、お子さんたちは「何か楽しそうやから行ってみようかな」、「公園だし帰り遊んで帰れるかも」みたいなきっかけがいろいろ相まって、大盛況で終わることができました。

イベント終わりで色々なお母さん、お父さん、お子さんとかと話す中で、何で来たんですかという「食べれるから」というのと、「何かもらえるんじゃないか」というのと、あとはお家の方が「防災に取り組まないといけないと思っていたけど、何から始めたらいいかわからないから」というのと、あとは「夏休み何も用事ないから」というのが、実際の理由でした。

だから、きっかけは、防災に興味があるという理由でなくても、いろいろな動機があっただけからの防災でよいと思います。無関心層への啓発する機会の創出は大変ですけども、例えば、無印良品で買物がてらに見たらあったり、あとは家庭で、レトルトパウチの裏側に防災電話の117が書いてあったり、目につくようなところで意識する機会がたくさんあると思います。街中デジタルサイネージもそうですし、親子だと散歩することが多いので、子どもが、「バイバイ」と言ってるごみ収集車に防災のことが書いていると、親は「何か書いてる」と目につくというような様々な方法があると思います。あとはSNSだとやっぱり発信者やそれを更新していく人が必要ということで、労力と時間がかかりかかると思います。ですがたくさん見ていただくという意味では、かなりいい方法かなと思います。

あと学校について、先日の防災講座でも、とあるお母さん、お父さんから「学校でしてください」と意見をいただきました。ぜひしたいんですけど、やっぱり学校のカリキュラムがかなり、道徳の時間がなくなったりとか、国語、算数、英語まで入ってきて、どうやって先生方も回していこうかなと考えられている状況で、防災に取り組むということが難しそうですねですとお伝えしたら、とても悲しそうな顔をして、「私からもちょっと言ってみます」と言ってくださったんです。そんな保護者もいらっしゃるの、そのような方を取り込めるような環境がくれたらなと思います。

○加我座長 ありがとうございます。もう一声、金戸さんいかがですか。

○金戸構成員 皆様のご意見を聞かせていただいて、すごくアイデアがたくさんあるんだなと思いました。私は防災に日頃そんなに関心を持っているほうではないんですけど、水だけはあると思って家に5年保存の水を保存しています。この前の会議でいただいたいろんな資料を見て、家族の人数分の量が全然足りてなかったのが買い足すなど、まず自分でもできることを

やってみようというところから始めています。お友だちにも聞いてみると、「何かしないとは思うけど、何をしたいかわからない」という方が多いなという印象です。無関心層を誘うという面で、先ほどおっしゃった食べ物につられてとか、お祭りの中の一角でやっていたら興味を持って来るとか、子どもは結構好きな工作とかで防災関連の何かをつくるとか、そういう何か興味引かれるものを前に出しながら、防災でこういうことが役に立ちますということアピールしていくと、皆さんもっと興味を持ってするのかなと思います。

あとこの資料を見ていて、無印さんとのコラボについて、無印は若い方からいろんな層のたくさんの方にファンが多いので、いいなと思います。自分も最近見に行けてなかったんですけど、また見に行きたいなと思いました。

メトロの地下通路のデジタルサイネージは、私も見てぱっと目について思わず足を止めて見ていました。友だちにも「地下鉄にこんなあったよ」と、わざわざ写真を撮って送ってきてくれた人がいて、ゆっくり見られる方は少ないかもしれませんが、目には留まるし見てくださる方もいるので、無駄ではないのかなと思います。ただ、頻繁に更新しようと思うと費用もかかってくると思うので、掲載をどのようにしたらいいのかについて考える必要があります。何かイベントをするなら、そのイベントの宣伝も含めてしていくと、より活用できると思いました。

学校でのジュニア防災リーダーの育成も大事かなと思ったんですけど、「リーダーがやってくれるから僕はいい」というようなことにならないよう、リーダーの育成も大事だけど、一人一人がこういうことならできるなとか、やってみたいなとか、そういうことを個人で考えるきっかけになるものがあればいいなと思いました。

あと部活をしていたり、日頃から体を鍛えてる子は体力も自信があったり、いろいろ動けるけれど、インドアであまり動かない子だと、あまり体力がないこともあるので、日頃から歩くとか、ハードな運動をしなくてもちょっとプラスアルファ体力をつけていくということも、防災に直接関係ないかもしれないけど、何かあったときは自分で自分を守る必要があるので、日頃から体を鍛えていきましょうみたいなことも大切なのかなと、思いました。

あと図書館の提案も、図書館に行く機会は時々あるので、防災のコーナーを設けてもらっていると、パッと目が行ってこんな本が出てるんだとか、防災の本も増えてきたので子どもさんと一緒に行ったときでも、絵が載ってるものだとちょっと見たいなと思ったり、面白そうだなと思って手に取ったりできるのでいいと思いました。字ばかりだと大人でも読むのがしんどいので、子どもと一緒に読むとなるといろんな絵もあって読みやすいというのはすごい大事かなと思いました。

○加我座長 ありがとうございます。暮らしの中で防災を意識する機会の創出ですので、多様な機会が創出されるということが重要になってくるかと思います。つつい忘れがちなのが防災ということで、私自身も家庭で本当にちゃんとやってるのかというと、怪しいところは

いっぱいあります。ついついホームセンターで気づくだとか、買物に行って気づくだとか、こういう機会を通じてということのほうが多いということになろうかと思しますので、いろんなところに仕掛けをしていただく。さらに動機は不純でということも大いに結構だと思います。何かと関連づけてきっかけをつくることが重要だと思いますので、いろんなことを取り組んでいただければなと思います。

資料2が終わりというわけじゃなく、これに関連して次の3の防災特設ページの話もございますし、多数参考資料も準備していただいていますので、ひとまず案件2の二つめのほうのご説明をいただいて、また意見交換をしたいと思えます。

では、防災特設ページでの興味関心を持たせる発信について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（至田企画総務課長補佐） それでは資料3と関連する参考資料をご参照いただきながら説明させていただきたいと思えます。

資料3をご覧ください。防災に関する取組や情報が十分に発信できていないという現状を踏まえまして、北区で開催する講座やイベント、北区にお住まい方にあらかじめ知っておいてほしい情報などを集約しました防災特別ページを、北区役所ホームページ内に開設いたします。

参考資料1が、防災特別ページのイメージです、防災に役立つ情報、楽しく取り組める情報など、北区の防災情報が詰まった防災啓発情報のプラットフォームをつくりたいと考えています。

それでは、防災特別ページで発信していく内容につきまして、資料3に沿ってご説明いたします。

まず、子育て世帯や共同住宅居住者、現役世代が多いといった北区の特性を踏まえた発信を行いたいと考えています。子育て世帯に向けたものとしましては、親子と防災講座でありますとか、子育てファミリーのための防災ブックを取材し動画を作成いたします。興味を持ってもらうためのショートバージョン、動画上で学んでもらうためのフルバージョンの編集をしまして、発信していきたいと考えています。

次に、参考資料2をご参照ください。

こちら昨年オープンしました体験型防災学習施設、堺市総合防災センターを子育て世帯に利用してもらえるようPRしたいと考えています。先ほども御紹介いただいたところですが、昨年度、北区政策会議でご意見をいただきました子どもの生きる力を育む体験イベントであります、わくわく教室でプログラムの一つとして、堺市総合防災センターでの体験を実施するということがございますので、この機会を捉えまして取材を行わせていただいて、小学生たちの体験レポートをホームページで発信したいと考えています。併せまして、北区からバス1本で行けるという、意外とアクセスがいいんだよということも併せてPRしてい

きたいというふうに考えています。

次に、共同住宅居住者に向けたものとしまして、マンション防災講座を紹介するとともに、揺れの増幅でありますとか、ライフライン停止による生活への影響など、共同住宅で出やすい被害と対策の紹介を考えています。

最後に、中学生や高校生、大学生など若者に向けたものとしまして、被災時に支援者として活躍できる知識やノウハウを身につけませんかというPRをしていきます。ジュニア防災リーダー育成事業などの学校での取組の紹介でありますとか、参考資料3にありますように、災害復興支援や地域で防災啓発活動を行う大阪公立大学ボランティア市民活動センター災害チームの活動取材しまして、同年代の方に共感を呼べるよう活動されている方々の思いを発信していきたいと考えています。

続きまして、多くの方に防災意識を持ってもらう発信としまして、興味を持たせることができる魅力的なコンテンツの発信を考えています。コンテンツの一つめとしまして、NHKから北区ホームページで紹介することについて許諾を得ました、数々の動画でありますとかクイズなどの見応えのあるコンテンツがございます。

参考資料4をご参照ください。

こちらがご紹介できるコンテンツのNHKホームページ画像でございます。いざというときに役立つ身の回りのものを紹介するショート動画集でありますとか、防災の最前線で働く人たちの動画集、小さいお子さんが人気のキャラクターと一緒に楽しく遊ぶことができ学ぶことができる「ポケモンぼうさいクラブ」、シチュエーションごとに投げかけられる質問で非常時の行動を想像するものなど、充実したラインナップが無料でご利用いただけます。

二つめが、防災関連本の紹介です。図書館司書によります書評を交えながら、興味を引く様々な視点で書かれたおすすめの本を紹介していきたいと思っております。併せまして、図書館で借りられる物につきましても、ご紹介できればと考えています。

三つめは、無料で利用できる講座の紹介です。堺市職員を講師として派遣する生涯学習まちづくり講座や、市と連携する企業による学びの応援プログラムでは、防災をテーマにした講座を無料で受講していただくことができます。

続いて四つめです。四つめは、SDGsプラットフォーム会員の防災に関する取組です。SDGsには、住み続けられるまちづくりといった、防災に関連する取組目標がありまして、防災の取組が行われています。こちら会員の皆さんが、それぞれの強みを生かして行う取組を紹介できればというふうに考えています。

今回ご紹介できるものは以上でございますけれども、引き続き訴求力のあるコンテンツを探して、紹介できる魅力的なものが見つければ、ホームページで随時発信していければなどというふうに考えています。防災への興味関心を高め、備えの行動を起こすきっかけとなり、さらには人に教えたいくなるような魅力的なホームページをつくっていきたくて考えています。

構成員の皆様のお立場やご経験から、防災特設ページでの興味関心を持たせる発信につきまして、忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

説明は以上です。

○加我座長 ありがとうございます。では先ほどの引き続きということではありますが、今回の特設ページについてということで、いろいろ今考えられているアイデアをいただきました。皆さんのほうから、お気づきの点等ございましたらご意見をいただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○坊農構成員 特設ページをつくるのであれば、やっぱり特設だなというふうなことを感じていただければいけないと思います。先ほどは冊子があると良いと言いましたが、字が多過ぎても、見る気がなくなってしまうので特設ページは例えばY o u T u b eで動画などをアップしたらどうかなと思います。

長いものは多分見なくて、Y o u T u b eでも5分ぐらいの動画しか見てないというのを聞いています。最近私もあまりテレビは見ずに、Y o u T u b eばかりなんですけど、どこか九州のほうの町で、きれいなイラストを使い、歴史上の人物を登場させて、実際あったことを交えてつくられた番組をすごくいいなと思い見ていました。堺も本当に歴史のあるまちですので、堺の歴史上の人物なんかを、アニメチックに登場させて、防災についていろいろと気をつけなければいけないよと呼び掛けるもの、お母さん方やお子さんも見ても楽しめるような、そんな短いアニメみたいなのをつくってY o u T u b eにアップしたら、堺市民、北区市民、あるいは周辺の皆さんもみんな見てくれて普及啓発になるかなと思います。

○加我座長 ありがとうございます。続いてございませんでしょうか。

○光武特別構成員 北区の特性を踏まえた発信で、ホームページ内に開設するということですが、かなり興味がないと深いところを探さないの、ぱっと見て上がってくるような、仕掛けをしていただくとか、あとはページのトップに持ってくるとか、あとは先ほどどなたかがお話されていたと思うんですけど、そういう月なのか、週間なのかに大きな見やすい特設ページを設けるとかしないと、探してもらえない、見つからないということがよくあるかと思えます。

SNSであれ、ホームページであれ、新聞であれ、自分の興味のあることしかチェックしないし、皆さん忙しいので、たどり着くまでかなり時間がかかるんですね。なので、動機は不純であっても、周りに、防災出てるわちょっと見てみようか、という気を引くようなことをしていただきたいと思えます。

○加我座長 ありがとうございます。ホームページのことで何かお考えありますでしょうか。事務局のほうで、これから工夫しますということでもいいです。

○事務局（増川企画係長） ご意見ありがとうございます。中身についてはこれからじっくり

検討してまいりたいと思います。ご指摘のとおり、ホームページをつくっても見に来ていただけないと意味がございませんので、先ほど資料2でご説明しましたように、暮らしの中で機会をたくさんつくって見に来ていただけるチャンスをつくってまいりたいと思います。そして、ホームページ上で情報の受け手にとってストレスがないようにテキストの文字数を極力抑え、イラスト、写真、図表などビジュアル重視にした内容にしたいと思っています。また、YouTubeやAmazonでは、次々おすすり提案をしてきてついついみてしまうことがあると思います。そのような機能をホームページは持ち合わせていないんですけども、掲載情報と関連するものを次々提案できるよう、関連リンクをたくさん貼って、なるべくホームページの滞在時間を長くしていただいて、より多くの情報に触れていただくような工夫をしていけたらと思っています。

以上でございます。

○加我座長 ありがとうございます。続いて皆さんのほうからご意見、アイデア等を。

○羽根構成員 共同住宅居住者に向けてについて、過去にマンション防災講座を何度か受けさせてもらったことがあります。災害時に集合住宅の人は、家があるのに避難所に押しつけてきたら、避難所がパンクして困るということがあるので、基本は在宅避難を推奨するという形になっていると思います。そういう場合にやっぱり居住者個々で対策をしてどうにかなるという問題でもないことが、集合住宅は多いと思います。マンションでも自主防災組織がないところも結構あると思いますので、もし可能であれば、区のほうで集合住宅のところに、直接こういう講座があるので来てくださいみたいなことで、案内をしたほうがいいのではないかなと思います。

それで、できればいろんなマンション管理組合の方とお互い情報共有して、いいところを取り入れあうことができる場があったらいいなと思います。

○加我座長 ありがとうございます。続いてございますでしょうか。はいどうぞ。

○清水構成員 発信ということですが、一斉にやるというのはいいことだと思います。例えば防災ウィークだったら、この中だけではなくてトップページも一斉にやるということですよ。SNSも含めて、もう1週間ばつとインパクトを持ってやるというのがすごく必要かなと思います。見せ方かなと思います。

それと共同住宅の話がありました。高層階の揺れということで、北区に20階以上の高層階のマンションがどれくらいあるのか分からないんですけど。中層階とかその下もたくさんあると思いますので、その高層階と中層階とにある程度分けてやっぱりインフォメーションを出すのがいいかなということと。

1軒家も恐らくたくさんあると思います。どうしても共同住宅に目がいくかも分かりませんが、共同住宅のほうは1年に1回何か総会があったりして会う機会がありますが、1軒家の方ってなかなか横のコミュニケーションが少ないと思います。ご近所はあるかも分かり



ませんけれども、自治会がそれぞれ機能してるかにもよると思います。1軒家の方はなおさら自分の家族しか、災害時に相談する人がいないでしょうから、普段から少しつながりが生まれる機会を持てるような発信ができればいいのかなと思います。

先ほどショートムービーについて、地元の人を使ってということを行いましたけれども、できる限りやっぱり自分が出ていると見ようとするだろうし、近くの人に見てというふうにも言うだろうと思うし、とにかくこういう啓発というのは、一斉にみんなに分かってもらうというは無理だと思うので、本当に徐々に浸透させていくしかないと思います。少しでも自分が関わっているというようなことをつくっていく機会があればいいのかなと思いました。

以上です。

○加我座長 ありがとうございます。続いてございませんでしょうか。

○天野構成員 竹内さんですかね。公立大学のボランティアですよ。中身もう少し教えていただけませんか。せっかくいい組織をつくっておられても、PRがしっかりできていないと効果が少ないのではないかなと思います。ぜひとも教えてください。

○竹内構成員 災害チームに私は入ってはいないんですけども、このボランティアセンターの災害チームは、災害が起きたときに活動するほか、主な活動として、募金活動とか、実際に現地に行ったりとか、あとは東日本大震災の追悼行事イベントでブースを出したり、運営をお手伝いしたりしています。あとは「イザ！カエルキャラバン！」というおもちゃの物々交換と防災訓練プログラムを組み合わせで防災イベントをお手伝いしています。堺市総合防災センターで5月頃に行われた親子を対象にしたイベントで、子どもたちと一緒に人形が潰れてしまってるのをジャッキで上げて救出したり、揺れが起こったときに、物とかタンスとか、どこを固定したら倒れなくていいかを模型などで学んだりということ、大学生のボランティアが主催者や、高齢のボランティアのグループの方と一緒にしました。

ほかにもブルーシート張りの技術講習であったり、技術とか行動についても実際に経験して身につけていくということをやっていたり、そういう啓発などもやっていると思います。

○天野構成員 ありがとうございます。申込みをしたら、どこが窓口なんですか。

○竹内構成員 このV e s t a t i o nへ電話かメールをして、申し込んでいただけたらと思います。

○天野構成員 分かりました。また後でゆっくり教えてください。ありがとうございます。

区長にお願いしたいのですが、図書館とか学校という話題が出てきました。正直言って個人的に図書館にあまり出入りをしていません。この北区の図書館に私は入ったことがありません。どんな物があってどう活用されているのか。PRする機会がもっと必要じゃないかと思います。できたら、連合会として一度見てみようかなと思っていますので、段取りをしていただきたいなと思います。これが1点。

もう1点、学校の問題です。学校は校長さんと話をしたらある程度できるんです。でも最

終的に、授業で取り組んでもらうとなると、校長だけではオーケーになりません。教育委員会とも連携を取っていかなければならないということになります。単純に学校との連携と書いてありますけども、なかなかうまくは行きません。

私どもは4、5年前に防災頭巾を学校に寄贈させてもらいました。約1,000枚、大変なお金がかかったんですけども、あえてやりました。なぜやったかといいますと、学校の子どもたちに地域の防災に関心を持ってもらいたい、同時に親御さんも関心を持ってもらいたいということでやりました。そうすると、子どもは大変関心を持ってくれました。残念ながら、関心を持たないのは親です。地域の防災訓練に親が1回も出てきたことがない。この問題はなかなか根が深くて、関心を持たない親から入っていかないといけないと思っています。

また区長、一度相談に乗ってください。お願いします。

○加我座長 ありがとうございます。ここで少し大阪公立大学のボランティアセンターを紹介しておきたいと思いますが、竹内さんは災害チームではなくて、どのチームに参加されてるのですか。

○竹内構成員 私はフードドライブや食品ロスに関する啓発のグループに属していました。同じボランティアセンターの中に災害チームがあるのですが、別のグループですのであまり詳しくは分かりません

○加我座長 ありがとうございます。ボランティアセンターの中にいろんなテーマで取り組まれている学生がいますので、本日は災害ということなので、この参考資料3のほうを持ってきていただいて、竹内さんに代表してご紹介いただきました、もしこれ災害チームでいきますと、東日本大震災を忘れることなくということから始まり、また西日本豪雨で活動を実施しということになりますが、これ地域の方々に「イザ！カエルキャラバン！」などをはじめ、防災のことを知ってもらう。そうしたことで出かけていくということは非常に大事なことだと思いますので、大学に問合せをいただければと思います。

場合によっては災害だけでなく、先ほどのフードロスの問題や、緑化、ゼロカーボン、カーボンニュートラル、ごみの問題など環境全般、いろんな興味を持っている学生がいますので、お気軽にボランティアセンターのほうにお問合せをいただければと思います。

続いて、はいどうぞ。

○八木構成員 まず、中学生、高校生、大学生の若者に向けてのジュニア防災リーダーの育成は非常にいいことだと思います。以前に堺区役所で「二十歳になったら防災士」というテーマで、二十歳になった人を対象に防災士の資格を取らせて、そのまま堺区で登録して活動してもらうという計画を実施されたこともあるので、北区でも参考にしてはどうかと思います。中高生、大学生に限定して、防災士の資格を取らせて登録し活動してもらったことを発信していただけたらと思います。

例えば災害を体験された方、実際にボランティアで現地に行った方の体験など、発信でき

たらと思います。私も阪神大震災、東日本大震災、倉敷の水害、仙台など、色々なところへ復興支援で行ったことがあります。そこでは、現地でないといけない、行って初めて見えるもの、知るものということがあり、なかなかマスコミの情報だけでは分からないことも結構あります。特に大きな災害の場合、全国からボランティアは多数集まりますが、課題も結構あります。

どれだけのボランティアをどこへ派遣、どうしていくかという、ボランティアと現地をつなぐ組織が機能しないという課題です。災害体験者もそうですし、現地に行き復興支援された方の体験談を発信し、よりスキルアップの向上を図ることができたらと思います。

以上です。

○加我座長 ありがとうございます。続いてご意見ございますでしょうか。はいどうぞ。

○光武特別構成員 先ほどの復興支援に関連して、資料3の、中高生、大学生など若者に向けての興味を持たせる発信というところですが、高校生、大学生がアルバイトをしだすタイミングかと思います。企業によると「CSR活動」というのがかなり盛んなところがあります。その中で被災地などに行ってボランティアをしているという活動をメインにしている企業もあります。それで復興支援に携わっているという高校生、大学生もあり、私もその中の1人でした。

昔、大学生の頃、防災とか地震とか全く興味がなく、阪神淡路大震災も私が1歳か2歳ぐらいの頃に被災しており、正直記憶がない状況でしたが、アルバイトしていた企業が、CSR活動に注力しており、東日本大震災の時、実際に宮城県にその活動で行ってきました。そのようなCSR活動が盛んである企業コラボであったり、こんなところが復興支援してるということを、市役所のホームページでお知らせしてもいいのではと思いました。

話は変わりますが、子育て世帯に向けてというところで、毎年10月から保育園の申込みが始まります。そのときに来庁される保護者の方、もしくはホームページを保護者、学校園の方がかなり見られると思うので、そのときに入り口にデジタルサイネージで防災情報などを発信したり、ポスターで告知してみたりという方法ができるのではないかなと、今皆さんのお話を聞きながら思いました。

また、共同住宅居住者向けについてですが、「おやこtoぼうさい」の講座で、マンション在住の方向けというのをしたことがないんです。今羽根さんの話を聞いてみて、マンション在住のお母さん、お父さんに向けて講座をしてみても楽しいのではないかなと思いました。私1人でやってるわけではないので、メンバーと要相談ですけども、北区はマンションがかなり多いと思います。「マンションだからこそその防災方法」を「おやこtoぼうさい」からの観点で、お伝えしていけたらなというふうに思いました。

○加我座長 ありがとうございます。続いて、また触発されてというのはございますでしょうか。どうぞお願いします。

○吉村構成員 防災特設ページにいろいろ情報を入れていただくということですが、いつぐら  
いにできますか。

○事務局（増川企画係長） 時期はまだ未定でして、一定の情報がそろった時点でリリースし  
たほうが、インパクトもあるかなと思いますので、情報がそろい次第、今年度中リリースを  
させていただけたらと。

○吉村構成員 完了時期をお伺いしたいのは、特設ページを見ていただくための仕掛けについ  
て、私にできることは何かあるのかと考えていたからです。特に関わっているお子さんたち  
はまだまだ未就学児、就学前の子どもたちなので、協力できるのは親子でというところが大  
きいかなと思います。特設ページが出来上がったら、例えばうちの園のお便りにQRコー  
ドを載せて、「ぜひご覧いただいて感想をください」などができればと思いました。

それと我々のこども園でも、就学前のお子さんですが、例えば今の時期だったら水という  
テーマなどで、子どもたちと一緒に体験をするんですね。水遊びだけじゃなくて、水ってど  
こから来るの？から始まる体験をします。毎年小学校の先生方と教諭同士で「かけ橋プログ  
ラム」について交流をするのですが、小学校に行くお子さんたちも、体験から学ぶというこ  
とが非常に多いので、防災という観点からどんなふうにつないでいったらよいか考えていま  
した。自分の身を守るということは、幼少期から非常に大事なことです。先ほどの学校とい  
うくりがありましたけれど、小学校も数年前から新学習指導要領に変わって「生活する  
力」「関わる力」が学習の大切な視点になると思うので、自分の身を守ること（防災）につ  
いてもかけ橋プログラムの中にあってもいいのかなと思っていました。

出来上がったら、まずは自分の園から、そして連盟で賛同してくれる園と一緒に発  
信します。まずは知っていただくことが大事かなというふうに思いました。

○加我座長 ありがとうございます。大体よろしいでしょうか。

では、特設ページは情報がそろってから年度内ということでしたが、場合によ  
っては、先ほどの保育所の登録もありますけども、ホームページもその時どきによく見られ  
るお知らせに合わせて、ターゲットを合わせて発信できればいいのではないかと思います。  
ホームページは順次更新していくものだと思いますので、あまり最初から完成度を求めて、  
なかなかアップできない、ということがないようにして、2段階、3段階目で、またこんな  
情報を加えました、みたいなことを案内するのでもいいのかもしれないので、ご検討いた  
だければと思います。

我々の都市計画や、造園学などの専門の集団でも、今年は関東大震災から100年という  
ことで、その当時の復興を振り返るといようなことを随時やっています。そんなことで、  
もう一度震災が起こったとき、もしくは大雨が起こったとき、どのように対応していったの  
かということは、常に勉強しつつ振り返りつつだと思えます。

私も北区民ですので、北区の安全安心を支えていただくのは、みんなで取り組んでいくと

ということだと思いますので、情報発信をよろしくお願ひしたいと思ひます。

では、ほかに大体皆様よろしいでしょうか。

では本日の会議の次第のほうは、これで全て終了にしたいと思ひます。ご協力ありがとうございました。

それではこの後の事務連絡等を事務局に進行をお返しいたします。よろしくお願ひします。

○事務局（増川企画係長） 構成員の皆様、本日はありがとうございました。

終わりに、区長の鈴木より一言ごあいさつをさせていただきたいと思ひます。

○鈴木区長 構成員の皆様、長時間誠にありがとうございました。

実は私、平成28年から4年間、令和2年まで危機管理室の防災課長を4年間務めました。そのときに、たまたま災害、熊本地震を筆頭にいろんな災害が起こりまして、様々なところの防災対策本部で経験したわけですが、そんなことから、非常に防災については私も強い意識を持っていて、皆様の今日のご意見を聞きながら、当時の4年間本当にいろいろ苦労したことを思い出しました。本当にこれからも事業内容をブラッシュアップしながら、防災意識を高める啓発を進めていきたいと思ひます。

本日の現役世代の防災意識を高める啓発というところでは、本当に貴重な経験いただきまして誠にありがとうございました。

本日の会議をもちまして、第1期目の北区政策会議を閉会というふうにさせていただくわけですが、1期では新型コロナウイルスの感染もありまして、書面会議が続いたところでも、私も見させていただきましたが、構成員の皆さまからたくさんのご意見を賜りましたこと。そして2年間6回にわたり、こうして会議を開催しご意見をいただきましたことを改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

当時、初めは魅力発信、発掘、創出につきましてお話をさせていただいたわけですが、北区の広報紙のリニューアル、インスタグラム等のSNSの活用、地域の取組のご紹介など、北区の魅力を広くアピールすることができました。

先日、先ほどお話ありましたように、新金岡の地下鉄の駅の壁に皆様のご意見など賜りまして作りまして、この「ふらっと北区」という魅力冊子をポスター化しまして貼り出しをさせていただいたのも、皆様のご意見を基にしたものでございます。

また2回目の子育てにつきましては、子どもたちの生きる力を育むため、今年の夏休み期間中に体験イベントわくわく教室を開催するなど、皆様のご意見を踏まえながら、「たのしいでつながるまちづくり」の実現につきまして、北区のまちビジョンの具現化が進んでおるところでございます。皆様のお力により、北区らしい区民協働の地域共生を進めることができましたことをお礼申し上げます。

今後、令和5年の10月から令和7年3月にかけて、第2期となる北区区政会議を開催する予定でございます。第2期の会議では、第1期で聴取した様々なご意見を踏まえ実施

しました、北区のみんなのまちビジョンの具現化に引き続き努めるとともに、取組を振り返りながら、さらに効果的なものへと発展させてまいりたいと思っております。

また、こちら今進めています「北区みんなのまちビジョン、いろんなたのしいでつながるまち北区」このビジョンに基づきまして、我々行政、取組を進めていますが、これは令和3年にできまして、5年間の計画になっています。令和の6年からアンケートを取りまして、令和7年には新しいビジョンをつくってまいりたいと思いますので、またぜひいろんな意見を賜りたいと思っております。

現構成員での会議は本日が最後となります。皆様には今後とも北区の推進に引き続きお力添えをいただけますようお願いを申し上げます、私の閉会のあいさつとさせていただきます。本当に2年間ありがとうございました。

○事務局（増川企画係長） それでは以上をもちまして、本日の北区政策会議を終了させていただきます。

本日はありがとうございました